

# 予防衛生の徹底により 事故率を低減した 大規模哺育育成農場

**DATA** 事業規模

所在地：北海道

飼養頭数：乳雄育成牛2,100頭

従業員数：9名

子牛を飼育する際、常に問題となるのは下痢と肺炎である。今回はJ Aクリニックを導入し、関係者全員で検討会を実施しながら、疾病予防対策を図り事故率低減を実現させた大規模農場の取り組み内容を紹介する。

## 疾病減少をめざす 徹底した衛生管理

同農場は、月約300頭の乳雄スモール子牛を管内JAや市場から導入する大規模哺育育成農場である。過去、マイコプラズマを要因とした呼吸器疾病が蔓延し、多いときには10%を超える事故率に悩んでいた。このような状況下、消毒などの基本的対策を徹底しながら、費用面でも可能な限り負担を減らす工夫をし、以下の具体的な取り組みを進めた。

### ① 消石灰の散布

牛を導入する前に、床、壁、柵、飼槽など牛が舐めることが可能な牛舎（子牛用ハッチ含む）の全範囲を消石灰で消毒している（写真1）。

### ② アルコール消毒の徹底

牛舎にアルコールスプレーを常置し、入場時は体を噴霧消毒している（写真2）。自動哺乳機も乳首周辺などアルコール消毒を徹底している。

### ③ 自動哺乳機の活用留意点

自動哺乳機に不向きな子牛（体重が小さい牛）は導入時からハッチで個体管理する。自動哺乳機ポットは毎日洗浄し、乳首やホースも毎日交

換、洗浄消毒している（写真3）。

### ④ 調乳室の管理

従業員の休憩スペースも兼ねていた調乳室は、専用の休憩室を別途設けた。人の出入りや動線の整理、定期的な調乳室の拭き取り検査を実施し、部屋全体が清潔に管理されるよう徹底している（写真4）。

### ⑤ ハッチの工夫

ハッチは通常箱型のため、天井部にアンモニア臭がこもりやすい。天井部分を開けて換気できる工夫をしている（写真5）。また、敷料のワラの下にバークチップを厚く敷き、ふん尿が流出しないようにしている。

### ⑥ 飼槽の蓋の設置

疾病の原因にもなる野鳥のふん尿が入らないよう、育成牛舎の飼槽に蓋を設置し、常に清潔な飼料が給与

されるようにしている（写真6）。

### ⑦ 牛房の壁の設置

疾病が牛房を超えて一気に広まらないよう、コンパネを当てて壁を設置し、牛房隣同士の子牛が舐め合えないようにしている（写真7）。

## 予防衛生への意識向上により 事故率が大幅に低減

これらの対策以外にも従業員向けの講習会などを実施し、従業員全体の予防衛生への意識向上を図った。その結果、今年度は淘汰も含めた事故率が4%と、過去3カ年度の半分近くに低減されている（図2）。このような予防衛生の徹底により飼育環境が改善されたことから、今後出荷する育成牛の発育向上が大きく期待される。

## 消毒などの基本を徹底



写真1：牛舎の消石灰消毒



写真2：入場前のアルコール消毒



写真3：毎日取り替える乳首とホース

## 清潔な牛舎環境



写真4：  
清潔な調乳室



写真5：換気のために開けたハッチ天井部



写真6：飼槽に蓋を設置



写真7：コンパネによる壁の設置

図1：平成20年度の事故率（全国の牛の個体識別情報検索サービスより推定）

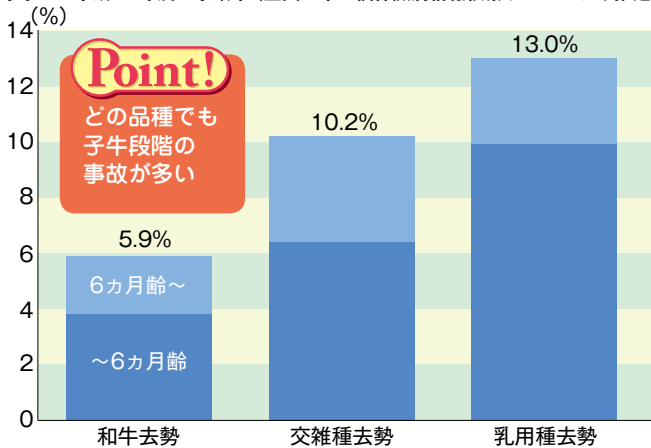


図2：農場の事故率（死亡+淘汰）の推移

